

公益財団法人福岡県すこやか健康事業団における健診（検診）実績報告

当事業団は、がん・生活習慣病の克服に向けて、科学的根拠に基づく質の高い健診（検診）、知識の普及啓発、調査研究等を行うために学術研究センターを設置しております。

特に、各種健診（検診）データの分析・評価を行い、予防医学等に関する調査研究に資するため、胃・大腸がん、乳がん、子宮がん、肺がん、生活習慣病、労働衛生の6部門からなる学術専門部会を設置し、各委員はそれぞれの分野の有識者で構成されています。

今回の報告は、6学術専門部会で分析・評価いただいた実績報告です。

【平成26年度健診（検診）実績概要報告】

平成26年度に当事業団で行いました健診（検診）総数は50万人近くになり、そのうち主なものは、がん検診317,421人、健康診査139,208人、特殊健診8,840人、特定保健指導764人でした。

また、平成27年度も健診事業の中から研究および学会発表を行い、第88回日本産業衛生学会総会、第45回消化器がん検診学会九州地方会、第74回日本公衆衛生学会総会、日本総合健診医学会第44回大会に各1題、第23回日本がん検診・診断学会学術総会においては2題、計6題を発表することが出来ました。

今後も学術研究センターの活動をさらに発展させ、地域住民の皆様の健康増進と福祉の向上に取り組んでいきたいと思っております。皆様のご支援とご指導を引き続き宜しくお願い申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人 福岡県すこやか健康事業団
理事長 瓦林 達比古

平成26年度 がん検診実施状況総括(日本対がん協会全国支部合計と事業団実績)

		受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん	がん発見率
		(A)	(B)	(B/A×100)	(C)	(C/B×100)	(D)	(D/A×100)
胃がん検診	福岡県支部(当事業団)データ ※1	82,320	5,015	6.09	3,719	74.16	59	0.07
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,330,391	169,409	7.27	132,323	78.11	3,040	0.13
子宮頸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	52,451	769	1.47	601	78.15	14	0.03
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,316,047	20,796	1.58	16,579	79.72	172	0.01
乳がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	55,115	4,910	8.90	4,409	89.80	189	0.34
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,241,998	66,511	5.36	57,956	87.14	2,989	0.24
大腸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	77,272	4,416	5.71	2,615	59.22	114	0.15
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,490,927	154,840	6.22	104,843	67.71	3,872	0.16
肺がん検診	福岡県支部(当事業団)データ ※2	50,263	2,310	4.60	2,017	87.32	47	0.09
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	3,309,806	67,779	2.05	52,567	77.56	1,503	0.05

※1. X線検査のみの数値

※2. X線+喀痰細胞診のみの数値

出典:2015年度版・がん検診年次報告書より抜粋(公益財団法人 日本対がん協会)

1. 胃がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M、SMと定義

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中度 (%)	平均年齢 ±SD (歳)
地域	45,996	3,040	6.6	2,681	88.2	50	0.11	36	72.0	1.64	62.5±11.07
職域	34,491	1,895	5.5	994	52.5	9	0.03	6	66.7	0.47	48.1±9.54
ドック	1,833	80	4.4	44	55.0	0	0.00	0	0.0	0.00	45.4±7.96
総計	82,320	5,015	6.1	3,719	74.2	59	0.07	42	71.2	1.18	56.1±12.67

平成26年度の胃がん検診受診者数は地域で45,996人、職域で34,491人、人間ドックで1,833人、計82,320人であった。要精検率は6.1%、精検受診率は74.2%、発見がん数は59人でがん発見率は0.07%、そのうち早期がんは42人で、早期がん率71.2%、陽性反応適中度は1.18%であった。厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標の許容値は、要精検率11%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.11%以上、陽性反応適中度1.0%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

2. 子宮頸がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期I A1期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中度 (%)	平均年齢 ±SD (歳)
地域	39,171	404	1.0	361	89.4	11	0.03	8	72.7	2.72	57.0±13.8
職域	12,532	341	2.7	224	65.7	3	0.02	3	100.0	0.88	43.1±10.9
ドック	748	24	3.2	16	66.7	0	0.00	0	0.0	0.00	44.5±7.7
計	52,451	769	1.5	601	78.2	14	0.03	11	78.6	1.82	53.5±14.4

※:発見がんの内、上皮がん10人を除いた場合、全体のがん発見数4人、発見率0.008%、早期がん数1人、早期がん率25.0%、陽性反応適中度0.52%

平成26年度の子宮頸がん検診受診者は地域で39,171人、職域で12,532人、人間ドックで748人、計52,451人であった。全体の要精検率は1.5%、精検受診率は78.2%、発見がん数は14人でがん発見率は0.03%、そのうち早期がんは11人で早期がん率78.6%、陽性反応適中度は1.82%であった。また、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標の許容値は要精検率1.4%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.05%以上、陽性反応適中度4.0%以上であり、地域において要精検率、精検受診率は満たしていた。

3. 乳がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期I期までと定義

	受診者数 (人)	要精者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がんであった者 (人)	がん発見率 (%)	早期がん数 (人)	早期がん率 (%)	陽性反応適中度 (%)	平均年齢 ±SD (歳)
地域	41,833	3,706	8.9	3,470	93.6	168	0.40	125	74.4	4.5	58.3±12.1
職域	12,475	1,100	8.8	850	77.3	20	0.16	11	55.0	1.8	44.1±10.6
ドック	807	104	12.9	89	85.6	1	0.12	0	0.0	1.0	44.5±7.8
計	55,115	4,910	8.9	4,409	89.8	189	0.34	136	72.0	3.8	54.9±13.2

平成26年度の乳がん検診受診者数は地域で41,833人、職域で12,475人、人間ドックで807人、計55,115人であった。要精検率は8.9%、精検受診率は89.8%、発見がん数は189人でがん発見率は0.34%、そのうち早期がんは136人で、早期がん率72.0%、陽性反応適中度は3.8%であった。厚生労働省が平成20年に作成した市町村事業における評価指標の許容値は、要精検率11%以下、精検受診率80%以上、がん発見率0.23%以上、陽性反応適中度2.5%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

4. 大腸がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M、SMと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	39,555	2,456	6.2	1,910	77.8	97	0.25	56	57.7	3.95	62.1±10.9
職域	35,173	1,859	5.3	665	35.8	14	0.04	11	78.6	0.75	48.8±9.4
ドック	2,544	101	4.0	40	39.6	3	0.12	3	100.0	2.97	46.3±8.5
計	77,272	4,416	5.7	2,615	59.2	114	0.15	70	61.4	2.58	55.5±12.2

平成26年度の大腸がん検診受診者数は地域が39,555人、職域が35,173人、人間ドックが2,544人、計77,272人であった。要精検率は5.7%、精検受診率は59.2%、発見がん数は114例、がん発見率は0.15%、そのうち早期がんは70例で早期がん率は61.4%、陽性反応適中度は2.58%であった。地域においては、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標の許容値は要精検率7.0%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.13%以上、陽性反応適中度1.9%以上を満たしていた。

5. 肺がん検診の実施状況

要精検を胸部読影判定Eとした場合（喀痰検査のみ除く）

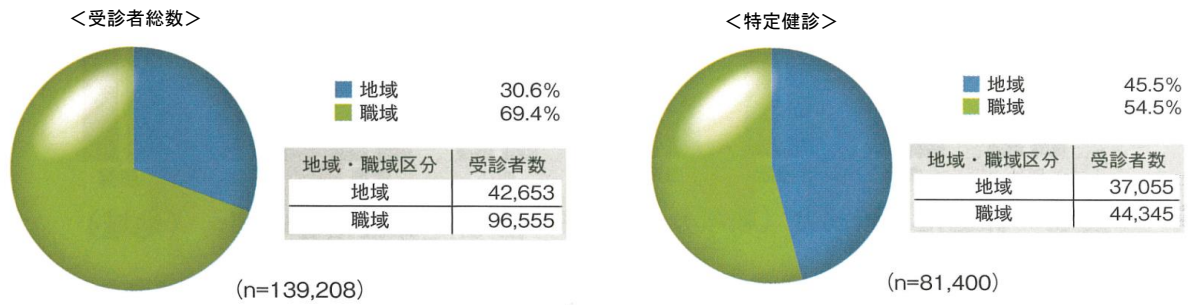
※早期がんを病理病期IA期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検率 (%)	精検受診 者数 (人)	精検受診 率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反応適 中度(%)	平均年齢 ±SD(歳)
地域	44,258	1,379	3.1	1,245	90.3	39	0.09	17	43.6	2.83	63.7±10.4
職域	3,177	13	0.4	8	61.5	1	0.03	0	0.0	7.69	48.2±11.5
ドック	2,828	15	0.5	9	60.0	0	0.00	0	0.0	0.00	46.0±8.7
計	50,263	1,407	2.8	1,262	89.7	40	0.08	17	42.5	2.84	61.4±11.7

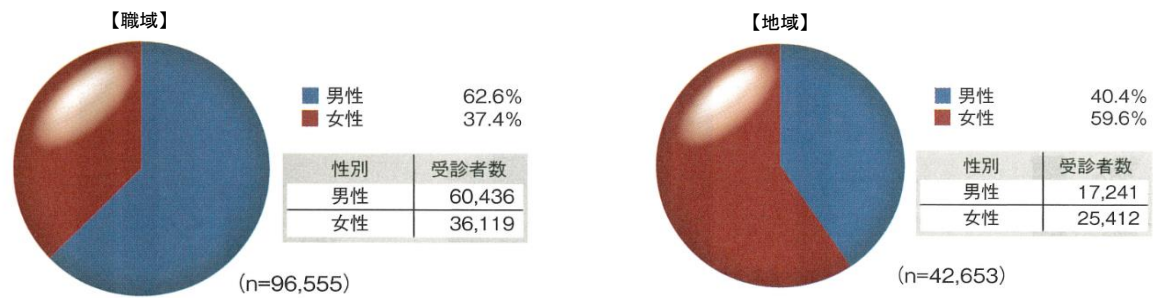
平成26年度の肺がん検診受診者数は地域で44,258人、職域で3,177人、人間ドックで2,828人、計50,263人であった。胸部読影判定E判定を要精検とした場合、要精検率は2.8%、精検受診率は89.7%、発見がん数は40人でがん発見率は0.08%、そのうち早期がんは17人で、早期がん率42.5%、陽性反応適中度は2.84%であった。これは、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業にける評価指標（E判定のみ）では、要精検率3.0%以下、精検受診率目標値90%以上、がん発見率0.03%以上、陽性反応適中度1.3%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

6. 健診・特定保健指導

①平成26年度 健診受診者状況



平成26年度の健診受診者総数は、地域42,653人、職域96,555人の計139,208人であった。
そのうち、特定健診は地域37,055人、職域44,345人の計81,400人であった。



	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
男性	11,108	16,234	14,026	11,612	6,967	489
女性	8,377	9,280	8,678	6,748	2,808	228

(単位:人)

	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
男性	74	626	1,764	1,821	7,424	5,532
女性	216	2,045	2,313	2,965	11,337	6,536

(単位:人)

性別・年齢別にみると、職域は男性が約6割を占め、30歳代が最も多く、40歳代、29歳以下、50歳代の順であった。
地域は女性が約6割を占め、年齢は60歳代が最も多く、70歳代、50歳代、40歳代の順であった。

②特定保健指導実施状況

実施者数：764名（職域：392名、地域：372名）

【職域】

	初回面談数(人)	評価実施数(人)	評価率(%)	体重増減数(kg)	腹囲増減数(cm)
積極的支援	206	188	91.3	-1.3	-1.7
動機付け支援	186	176	94.6	-0.9	-0.6

【地域】

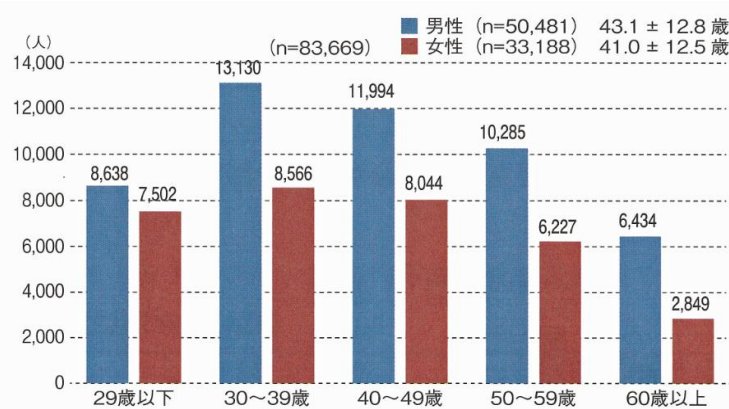
	初回面談数(人)	評価実施数(人)	評価率(%)	体重増減数(kg)	腹囲増減数(cm)
積極的支援	75	49	65.3	-2.0	-2.3
動機付け支援	297	253	85.2	-1.1	-1.0

7. 労働衛生

(1) 一般健康診断実施状況

性別でみると、男性50,481人(60.3%)、女性33,188人(39.7%)で男性の受診者が多かった。また、年齢階級別にみると、どの年代においても女性に比べ男性の受診者数が多く、平均年齢は男性43.1歳、女性41.0歳であった。30～39歳が最も多く、次いで40～49歳であった。

<年齢階級・性別受診者数>



(2) 特殊健康診断実施報告

特殊健康診断の項目別に判定結果をみると、有機溶剤にて管理Bは13人(0.4%)であり、電離放射線にて管理Bは2人(0.2%)であった。石綿では、要二次検査対象が6人(1.6%)にみられ、このうち3人は胸部CTまで実施しており、その結果、管理Bとなった方が2人、管理Cとなった方が1人であった。

<特殊健康診断 項目別判定結果>

項目	区分 受診者数 人	判定結果											
		管理A		管理B		管理C		管理R		管理T		要二次検査	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
有機溶剤	3,595	3,154	(87.7)	13	(0.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	428	(11.9)	0	(0.0)
特定化学物質	2,424	2,312	(95.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	112	(4.6)	0	(0.0)
電離放射線	877	856	(97.6)	2	(0.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	19	(2.2)	0	(0.0)
鉛	185	176	(95.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	9	(4.9)	0	(0.0)
石綿	383	366	(95.6)	2	(0.5)	1	(0.3)	0	(0.0)	8	(2.1)	6	(1.6)

(3) 作業環境測定

平成26年度の環境科学センターにおける作業環境測定実施状況は、鉱物性粉じんは49事業場で実施し、延単位作業場数227で、このうち第一管理区分が196作業場で全体の86.3%であった。特定化学物質等は50事業場で実施し、延単位作業場数で140、このうち第一管理区分が135作業場(96.4%)であった。金属類の鉛を測定した事業場はなく、鉛以外は2事業場で実施し、延単位作業場数で3、全ての作業場が第一管理区分であった。有機溶剤は112事業場で実施し、延単位作業場数で378、このうち第一管理区分が326作業場で、全体の86.2%であった。騒音は9事業場で実施し、延単位作業場数で102、このうち第一管理区分が51作業場で、全体の50.0%であった。

<環境測定実施状況>

測定対象作業場	測定実施事業所数	延単位作業場数	延べ単位作業場の管理区分		
			第一管理区分	第二管理区分	第三管理区分
鉱物性粉じん	49	227	196	9	22
特定化学物質等	50	140	135	3	2
金属類	鉛	0	0	0	0
	鉛以外	2	3	3	0
有機溶剤	112	378	326	25	27
騒音	9	102	51	38	13